

2016年度(平成29年3月期) 第1四半期決算説明資料

2016年7月29日

株式会社 IHI



1. 2016年度第1四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益及び特別損益.....	9
連結貸借対照表.....	10
補足資料.....	11

2. 2016年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	14
第2四半期(累計)業績見通し.....	15
報告セグメント別内訳.....	16

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	20
社会基盤・海洋.....	22
産業システム・汎用機械.....	24
航空・宇宙・防衛.....	26

<参考資料>	28
--------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2016年度第1四半期 連結決算

1. 2016年度第1四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2016年度1Q 売上平均レート(米ドル) 108.95円

(億円)

	'15年度1Q	'16年度1Q	増減
受注高	3,010	2,588	▲ 421
売上高	3,407	3,414	6
営業利益	0	106	106
経常利益	▲ 4	45	50
税金等調整前 四半期純利益	▲ 4	45	50
親会社株主に帰属する 四半期純利益	0	8	8

当連結会計年度から、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、当第1四半期連結累計期間においては、該当する海外連結子会社の会計期間が6か月となっています。この影響により、売上高で252億円、営業利益で27億円がそれぞれ増加しています。

1. 2016年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'15年度1Q	'16年度1Q	増減	'15年度末	'16年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,461	867	▲ 593	8,434	8,078	▲ 355
社会基盤・海洋	233	270	36	1,943	1,835	▲ 107
産業システム・汎用機械	1,014	1,094	80	1,380	1,458	78
航空・宇宙・防衛	279	328	48	5,410	4,610	▲ 799
報告セグメント計	2,988	2,561	▲ 427	17,168	15,983	▲ 1,184
その他	158	144	▲ 14	247	216	▲ 30
調整額	▲ 137	▲ 116	20	-	-	-
合計	3,010	2,588	▲ 421	17,416	16,200	▲ 1,215
海外受注高・受注残高	1,009	1,108	98	7,579	6,212	▲ 1,366
海外受注高・受注残高比率	34%	43%	9%	44%	38%	▲ 6%

1. 2016年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'15年度1Q	'16年度1Q	増減	'15年度1Q	'16年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	1,011	963	▲ 48	▲ 9	▲ 23	▲ 14
社会基盤・海洋	338	338	0	▲ 130	▲ 65	64
産業システム・汎用機械	931	1,015	83	6	32	25
航空・宇宙・防衛	1,111	1,037	▲ 74	173	169	▲ 4
報告セグメント計	3,392	3,354	▲ 38	41	112	70
その他	105	146	41	▲ 5	▲ 3	1
調整額	▲ 90	▲ 87	3	▲ 35	▲ 1	33
合計	3,407	3,414	6	0	106	106

一部の海外連結子会社の決算日を変更した影響については、売上高は「資源・エネルギー・環境」で109億円、「社会基盤・海洋」で3億円、「産業システム・汎用機械」で117億円増加しています。
営業利益では「資源・エネルギー・環境」で6億円、「産業システム・汎用機械」で20億円がそれぞれ増加しています。

1. 2016年度第1四半期 連結決算

報告セグメント別内訳(営業利益の前年同期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 2	5	▲ 10	▲ 7	▲ 14
社会基盤・海洋	▲ 2	70	▲ 5	1	64
産業システム・汎用機械	24	16	▲ 3	▲ 12	25
航空・宇宙・防衛	▲ 3	▲ 3	▲ 18	20	▲ 4
報告セグメント計	17	88	▲ 36	2	70
その他	4	▲ 1		▲ 2	1
調整額		31		2	33
合計	21	118	▲ 36	2	106

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

2016年度第1四半期に発生した採算悪化要因と対策

シンガポール向けドリルシップ船体建造工事

- 4月末に愛知工場ドックから艀装岸壁にシフト完了。
- 艀装電装の残工事の施工と一部試運転を開始。
- 電線物量の増加によるコスト増加を織り込み。

ノルウェー向けFPSO船体建造工事

- 6月末までに愛知工場及び韓国YardからシンガポールYardに前後部の船体大型ブロックの輸送を完了したことにより物量を見直し。
- シンガポールYardでの作業量増加や、品質・納期管理徹底のための現地SV派遣者増員に伴うコスト増加を織り込み。

LNG船用SPBタンク建造工事

- 1番船, 2番船用のタンク建造が順次進捗し, 1番船用のタンクのLNG船への搭載を開始。
- 6月からは3番船の加工を開始。
- 1番船でタンク最終組立段階での能率悪化が発生したことで, 1番船の追加コストを後続船にも適用。

対策: 全社コーポレート支援として、部門を超えた技術者・専門家の配置やモニタリング強化といった施策を継続することにより、設計及び管理機能の更なる強化を実行。

1. 2016年度第1四半期 連結決算 営業外損益及び特別損益

(億円)

	'15年度1Q	'16年度1Q	増 減
金融収支	0	0	1
持分法による投資損益	11	▲ 3	▲ 14
為替差損益	9	▲ 89	▲ 99
その他	▲ 24	32	57
営業外損益	▲ 4	▲ 60	▲ 56
特別損益	—	—	—

期末日レートの変動(米ドル) '15年度1Q +2.28円 (期首120.17円→1Q末122.45円)
'16年度1Q ▲9.77円 (期首112.68円→1Q末102.91円)

1. 2016年度第1四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'15年度末	'16年度1Q末	増 減
資産合計	17,150	16,756	▲ 393
(うち 売上債権)	(4,448)	(3,825)	(▲ 622)
(うち 棚卸資産)	(4,103)	(4,493)	(390)
負債合計	13,816	13,539	▲ 277
(うち 仕入債務)	(2,974)	(2,816)	(▲ 158)
(うち 前受金)	(1,803)	(2,201)	(397)
(うち 有利子負債残高)	(3,745)	(3,625)	(▲ 119)
純資産合計	3,333	3,217	▲ 116
株主資本	3,058	3,065	6
その他の包括利益累計額	124	21	▲ 103
負債・純資産合計	17,150	16,756	▲ 393
D/Eレシオ (※)	1.12倍	1.13倍	0.01倍

有利子負債残高には、リース債務残高('15年度末:179億円, '16年度1Q末:169億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

1. 2016年度第1四半期 連結決算 補足資料

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'15年度1Q	'16年度1Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	6	330	324
投資キャッシュ・フロー	▲ 160	▲ 166	▲ 5
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 154	164	318
財務キャッシュ・フロー	162	▲ 111	▲ 274

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'15年度1Q	'16年度1Q
研究開発費	84	69
設備投資額	79	92
減価償却費	106	111

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高

(億円)

	'15年度1Q	'16年度1Q
ア ジ ア	495	592
中 国	247	229
北 米	845	763
中 南 米	69	81
欧 州	373	307
そ の 他	59	93
合 計	2,089	2,067
海外売上高比率	61.3%	60.6%

2. 2016年度 連結業績見通し

2. 2016年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円** (前回見通し公表時 **110円**)
(第2四半期以降) ユーロ **115円** (前回見通し公表時 **125円**)

(億円)

	前回見通し ('16年度通期) A	今回見通し ('16年度通期) B	前期実績 ('15年度通期)	増減 B-A
受注高	15,000	14,500	16,053	▲ 500
売上高	16,000	15,200	15,393	▲ 800
営業利益	650	580	220	▲ 70
経常利益	550	440	97	▲ 110
親会社株主に帰属する 当期純利益	300	220	15	▲ 80

(参考) 為替感応度 (為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)
米ドル 8億円 ユーロ 0億円

売上高は、為替円高の影響等により、前回発表予想から減少としました。損益面では、当第1四半期連結累計期間での実績の反映や、為替円高の影響等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに減益となる見込みです。

2. 2016年度 連結業績見通し 第2四半期(累計)業績見通し

前提為替レート 米ドル **105円** (前回見通し公表時 **110円**)
(第2四半期) ユーロ **115円** (前回見通し公表時 **125円**)

(億円)

	前回見通し ('16年度第2 四半期累計) A	今回見通し ('16年度第2 四半期累計) B	前期実績 ('15年度第2 四半期累計)	増 減 B-A
売 上 高	7,000	7,000	6,882	0
営 業 利 益	250	230	2	▲ 20
経 常 利 益	180	160	▲ 40	▲ 20
親会社株主に帰属する 四半期純利益	100	90	▲ 39	▲ 10

売上高は前回発表予想から変更はありませんが、損益面では、当第1四半期連結累計期間での実績の反映等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに減益となる見込みです。

2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’16年度通期)	今回見通し (’16年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	5,000	4,700	▲ 300
社会基盤・海洋	1,200	1,200	0
産業システム・汎用機械	4,500	4,300	▲ 200
航空・宇宙・防衛	4,200	4,200	0
報告セグメント計	14,900	14,400	▲ 500
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 600	▲ 600	0
合 計	15,000	14,500	▲ 500

2. 2016年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’16年度通期)		今回見通し (’16年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	5,300	160	4,800	140	▲ 500	▲ 20
社会基盤・海洋	1,600	30	1,600	▲ 10	0	▲ 40
産業システム・汎用機械	4,400	150	4,100	120	▲ 300	▲ 30
航空・宇宙・防衛	4,600	360	4,600	360	0	0
報告セグメント計	15,900	700	15,100	610	▲ 800	▲ 90
そ の 他	700	30	700	30	0	0
調 整 額	▲ 600	▲ 80	▲ 600	▲ 60	0	20
合 計	16,000	650	15,200	580	▲ 800	▲ 70

2. 2016年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 20		▲ 20	20	▲ 20
社会基盤・海洋		▲ 40			▲ 40
産業システム・汎用機械	▲ 30		▲ 10	10	▲ 30
航空・宇宙・防衛		20	▲ 20		0
報告セグメント計	▲ 50	▲ 20	▲ 50	30	▲ 90
その他					0
調整額				20	20
合計	▲ 50	▲ 20	▲ 50	50	▲ 70

3. 報告セグメント別の概況

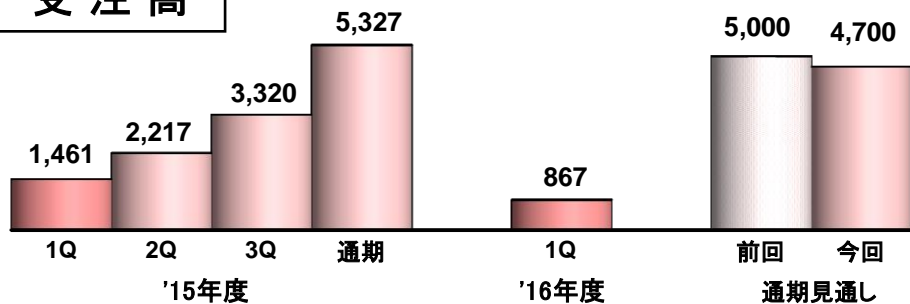
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2016年5月10日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント, 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

受注高



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

前年同期にボイラで大型案件の受注があった反動により、大幅に減少しました。

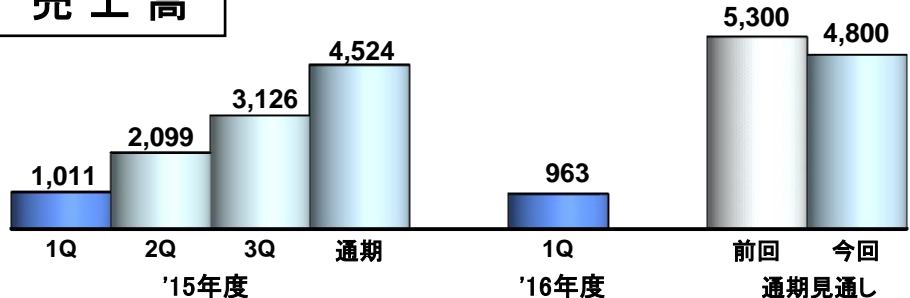
【売上高】

報告期間統一の影響のほか、ボイラの大型定検工事の売上や工事進捗に伴う増収はあったものの、プロセスプラント及び陸船用原動機の減収により、前年同期に比べ減収となりました。

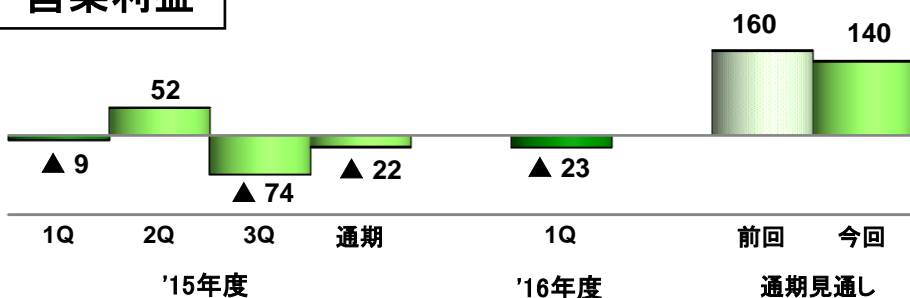
【営業利益】

ボイラの増収増益効果はあったものの、プロセスプラント及び陸船用原動機の減収影響等により、赤字となりました。

売上高



営業利益



<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高については、為替円高や原油安など外部環境の悪化の影響により、プロセスプラント等で減収となる見込みです。営業利益については販管費の削減を図るものの、上述の減収影響により減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高					
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
ボ イ ラ	1,701	900	182	447	569	808	245	1,200
原 動 機 プ ラ ン ト	221	450	43	90	198	318	58	250
陸 船 用 原 動 機	811	700	209	376	577	778	133	600
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	1,071	1,250	306	634	951	1,231	215	1,250
原 子 力	386	400	38	110	147	325	22	350

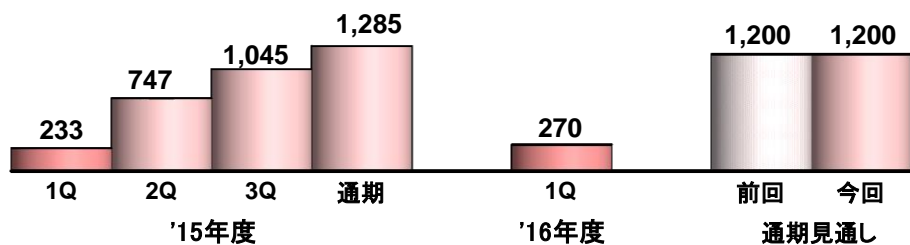
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

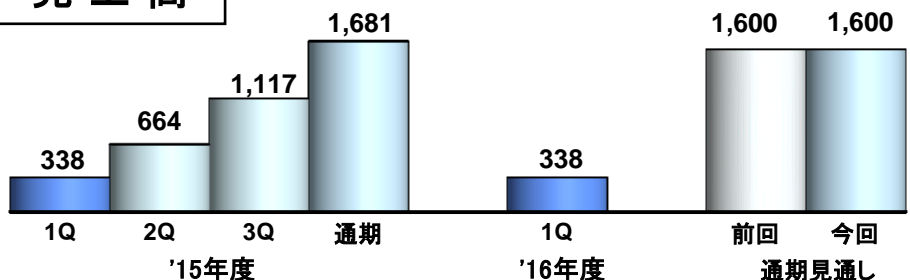
前回: 2016年5月10日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発, F-LNG

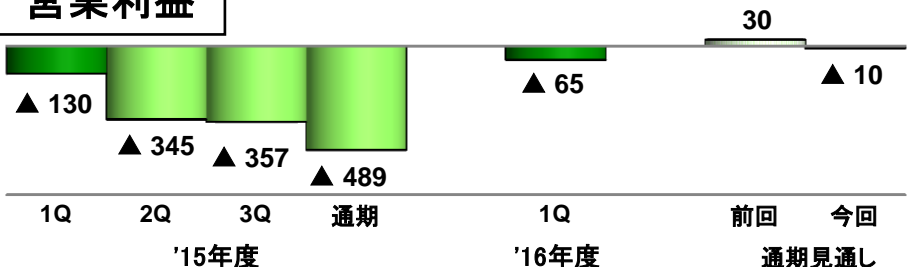
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

シールド掘進機及び交通システムの減少があったものの、橋梁・水門の増加により、前年同期に比べ増加しました。

【売上高】

F-LNGの工事進捗に伴う増収があったものの、橋梁・水門及び都市開発の減収により、前年同期とほぼ横ばいとなりました。

【営業利益】

F-LNGで追加コストを計上したものの、前年同期におけるF-LNG及びトルコ イズミット湾横断橋建設工事での損失計上の反動により、赤字幅が縮小しました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

営業利益は、第1四半期でのF-LNGの採算悪化を反映して減益としました。

受注高、売上高は変更ありません。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高					
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			通期	'16年度	
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期 (見通し)
橋 梁 ・ 水 門	766	650	175	337	533	760	150	600
F-LNG	▲ 155	0	36	68	144	214	80	300
都 市 開 発	162	150	51	88	127	176	34	150

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P33、P34の<参考資料>をご覧ください。

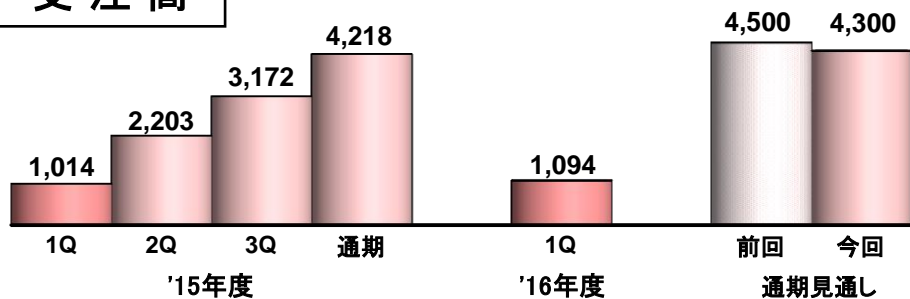
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

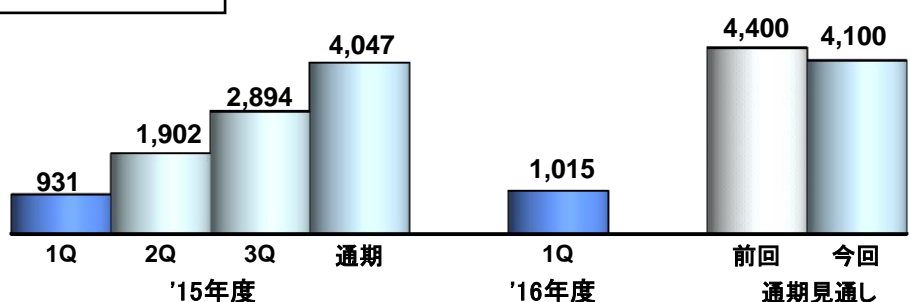
前回: 2016年5月10日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 建機, 農機・小型原動機

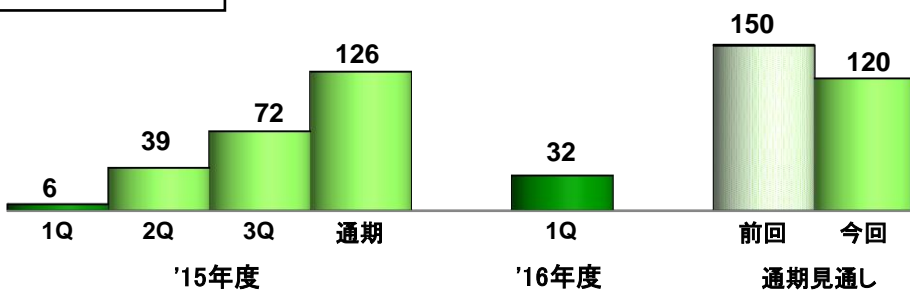
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

運搬機械及び建機の減少があったものの、物流・産業システム及び車両過給機の増加により、前年同期に比べ増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響もあり、車両過給機、物流・産業システム及び運搬機械の増収により、前年同期に比べ増収となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	1Q	通期
'15年度	145	536
'16年度	155	626

【営業利益】

報告期間統一の影響による販管費の増加はあったものの、上述の増収効果に加え、回転機械及びパーキングの採算改善により増益となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高については、為替円高や海外経済の減速などの影響により、車両過給機等で想定より減少する見込みです。営業利益については販管費の削減を図るものの、上述の減収影響により減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高					
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			'16年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期 (見通し)
運搬機械	358	350	35	98	156	218	54	300
パーキング	396	400	87	195	298	426	75	400
熱・表面処理	298	330	70	145	231	317	78	350
車両過給機	1,620	1,700	440	828	1,218	1,616	474	1,700
回転機械	487	500	84	194	295	464	103	500

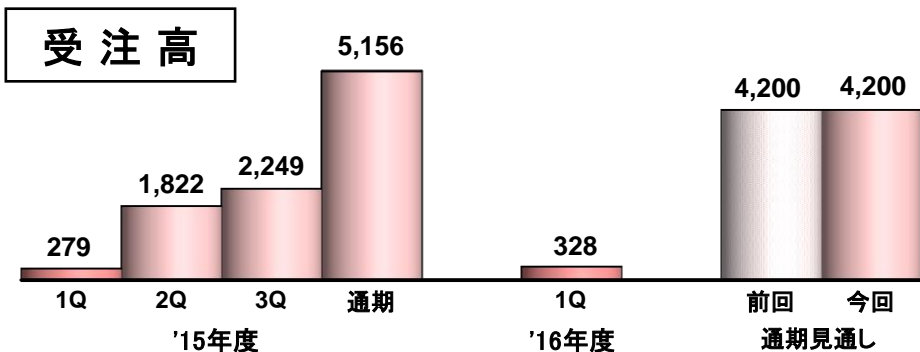
「車両過給機」の詳細は、P32の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2016年5月10日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム



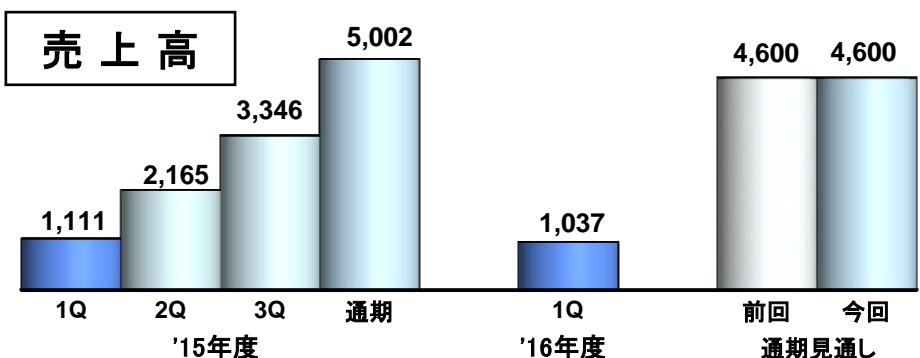
<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

航空エンジン及び防衛機器システムの増加により, 前年同期に比べ増加しました。

【売上高】

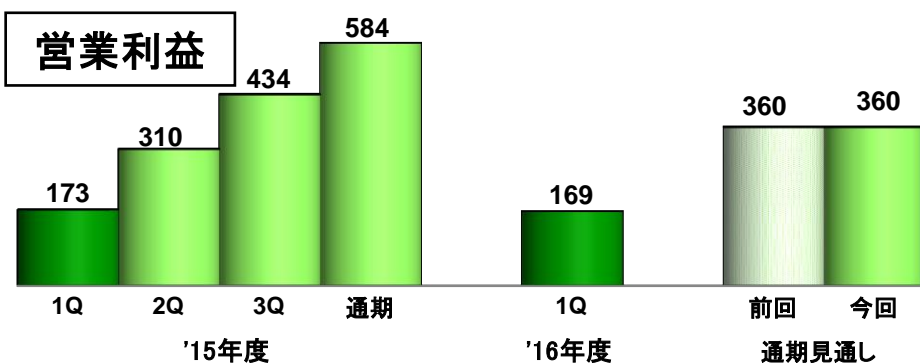
為替円高の影響などにより民間向け航空エンジンが減少したことや, 防衛機器システムにおいて前年同期に艦艇用ガスタービンの引渡しがあった反動により, 減収となりました。



<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	1Q	通期
'15年度	336	1,260
'16年度	334	1,450



【営業利益】

研究開発費等, 販管費の減少はあったものの, 上述の減収影響により, 前年同期に比べ減益となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

受注高・売上高・営業利益については為替円高の影響を受けるものの, 採算改善でカバーすることにより, 見通し数値に変更はありません。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高					
	'15年度 通期	'16年度 通期 (見通し)	'15年度			'16年度		
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,761	2,900	778	1,490	2,242	2,991	698	3,000

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P31の<参考資料>をご覧ください。

< 参考資料 >

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第1四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2016年6月現在



酸性ガス吸収塔据付

<進捗状況>

2016年6月末現在で、設計はおよそ99.8%完了し、機器の発注は99.7%完了している。建設は41.1%進捗している。前処理エリアの主要な機器の据付が完了した。構造用鋼の製作は基本的に完了した。パイプの製作は進行中である。

<主要工程>

2013年4月: 契約締結
 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
 2015年3月: 起工式挙行
 2016年末: DCS(プラント制御装置)運転開始
 2017年中頃: メカニカル・コンプリーション
 2017年10~12月: 運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転および運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2016年6月末現在

<進捗状況>

2016年6月末現在、建設地では埋立作業(他社所掌)が完了し、タービン・ボイラエリアの杭打工事が開始された。ボイラ部分の進捗は設計:60%, 調達:20%, プロジェクト全体:約15%。

<主要工程>

2014年 8月: 契約締結	2018年10月: 火入れ(#1)
2017年 1月: 立柱(#1)	2019年 4月: 火入れ(#2)
2017年 7月: 立柱(#2)	2019年 6月: 運転開始(#1)
2018年 4月: 水圧試験(#1)	2019年12月: 運転開始(#2)
2018年11月: 水圧試験(#2)	

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

インドネシア 超々臨界圧石炭火力発電ボイラ

住友商事株式会社から、超々臨界圧(以下「USC」)石炭火力発電ボイラを受注しました。本件は、インドネシアの国営電力会社であるPT.PLNが、ロンタル石炭火力発電所内の既設1-3号機の隣接地に4号機を増設するもので、運転開始は2019年の予定です。今回受注したUSCボイラは、蒸気を超高温・超高压化することで発電効率を高め、燃料の使用量と二酸化炭素の排出量を抑制することができます。

今後も成長が見込まれるインドネシアをはじめとするグローバル市場において、安定的かつ効率的な電力供給を実現するために、高い発電効率および優れた環境性能を誇るボイラを中心とした発電機器・システムを提供していきます。

<納入予定地>



トルコ イズミット湾横断橋

当社の子会社である株式会社IHIインフラシステムが、トルコ共和国で建設を進めていたイズミット湾横断橋(トルコ名:オスマン・ガーズィー橋, 以下「本橋」)の開通式が6月30日に執り行われました。本橋は、IHIグループが手掛けた海外橋梁の中で最長、世界第4位の吊橋であり、トルコ最大都市であるイスタンブールとトルコ第3の都市であるイズミル市を結ぶ高速道路プロジェクトの一部を成しています。

IHIグループはトルコにおいて、旧・新ゴールデン・ホーン橋の建設や、第2ボスポラス橋の建設、イスタンブール長大橋梁耐震補強工事などの施工実績があり、トルコの道路交通インフラ整備に大きく寄与してきました。今後とも引き続き海外での橋梁事業展開を推進し、社会インフラの整備を通して各国の発展に貢献していきます。



イズミット湾横断橋(オスマン・ガーズィー橋)

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績								見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15年度			通期	'16年度	
					1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	778	1,490	2,242	2,991	698	3,000

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16/1Q	
V2500	2,850	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,000	エアバス A319/320/321
GE90	464	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,312	ボーイング B777
CF34	1,027	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,570	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx							118	259	468	751	1,035	1,100	ボーイング B787/B747-8
PW1100G											16	27	エアバス A320Neo
合計	4,341	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,009	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績								見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度	
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
日 本	331	339	353	375	84	172	255	346	84	330
ア ジ ア	169	248	298	275	78	129	166	216	66	170
中 国	143	181	234	243	71	118	179	249	118	470
北 米	11	13	16	18	5	12	18	24	13	20
中 南 米	0	0	0	7	8	16	24	34	29	70
欧 州	437	432	602	756	192	378	573	743	160	640
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	440	828	1,218	1,616	473	1,700

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績								見通し	
	'11	'12	'13	'14	'15年度				'16年度	
					1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	通期
賃貸収入	95	92	91	93	25	50	76	101	23	92

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'16年度1Q	23	8	5	8

豊洲1～3丁目地区 開発マップ

豊洲Hビル
 地上25F, 高さ:約125m, 延床面積:97,617㎡
 2006年2月竣工



幼稚園, 保育園, カフェ, 結婚式場
 敷地面積: 19,492㎡
 2010年3月～2011年2月竣工

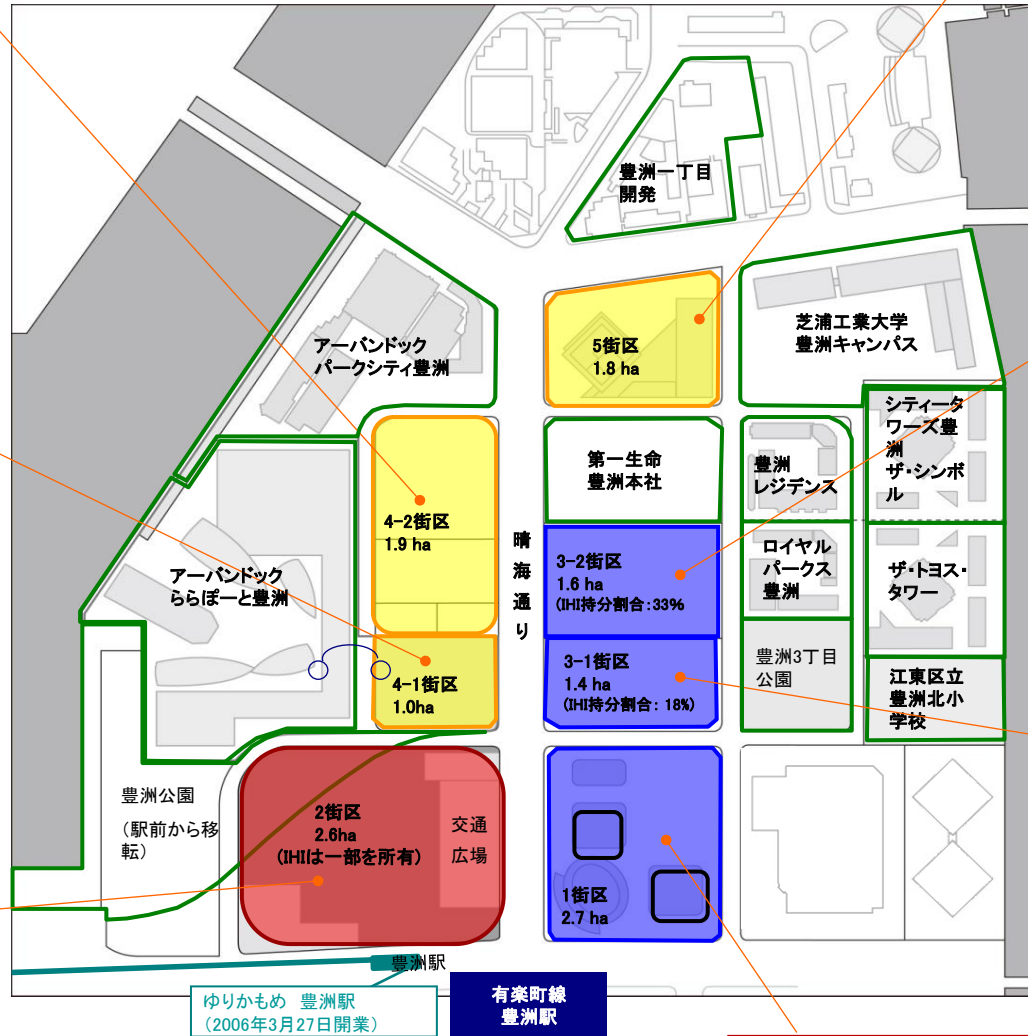


アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEKX
 (三井不動産)
 地上5F, 高さ約25m, 延床面積:24,721㎡
 2006年10月開業



事務所棟
 (IHI, 三井不動産)
 開発中

シンビックセンター棟: 2015年9月開業
 消防署棟: 2016年6月竣工



豊洲フォレシア
 (IHI, 三菱地所(SPC))
 地上16F, 高さ:約75m, 延床面積:101,503㎡
 2014年7月竣工



豊洲フロント
 (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
 地上15F, 高さ:約75m, 延床面積:106,861㎡
 2010年8月竣工



豊洲センタービル
 地上37F, 高さ:約165m, 延床面積:100,069㎡
 1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
 地上33F, 高さ:約150m, 延床面積:105,448㎡
 2006年8月竣工

IHI所有地	約8ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。